

製品名: ヒストン H2A.X (リン酸化 Ser139) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号:** APRab04775

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット、ハムスター
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	15,19kDa

抗原情報

遺伝子名	H2AFX
別名	H2AFX; H2AX; Histone H2A.x; H2a/x
遺伝子 ID	3014.0
SwissProt ID	P16104
免疫原	抗血清は、ヒトヒストン H2A.X の Ser139 のリン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 94-143

背景

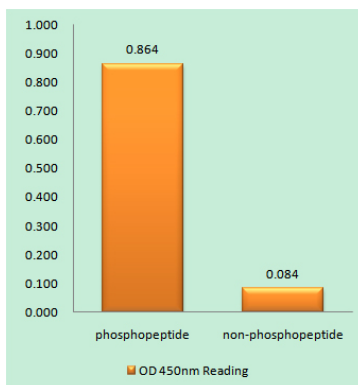
ヒストンは、真核生物の染色体繊維のヌクレオソーム構造を担う基本的な核タンパク質です。4つのコアヒストン

(H2A、H2B、H3、H4) はそれぞれ 2 分子ずつで八量体を形成し、その周囲に約 146 bp の DNA がヌクレオソームと呼ばれる繰り返し単位に巻き付いています。リンカーヒストンである H1 は、ヌクレオソーム間のリンカー DNA と相互作用し、クロマチンを高次構造に凝縮する役割を果たします。この遺伝子は、ヒストン H2A ファミリーに属する複製非依存性ヒストンをコードしており、保存されたステムループ終結モチーフとポリ A 付加モチーフを用いて 2 つの転写産物を生成します。[RefSeq 提供、2015 年 10 月]、発達段階: G1 期および S 期に合成されます。、ドメイン: [ST]-Q モチーフは、PI3/PI4 キナーゼファミリーのキナーゼの認識配列を構成します。

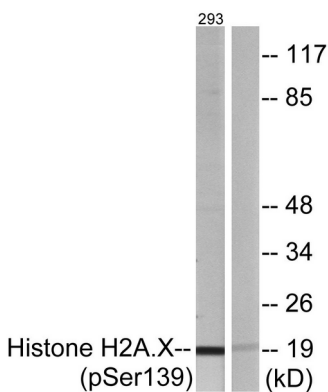
研究分野

タンパク質アセチル化

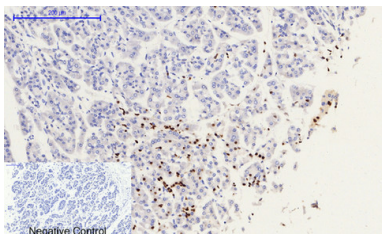
画像データ



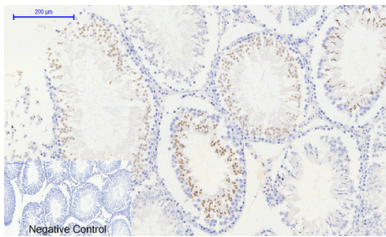
ヒストン H2A.X (リン酸化 Ser139) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



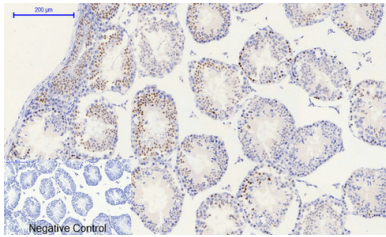
ヒストン H2A.X (リン酸化 Ser139) 抗体を用いた、ヒートショック処理した 293 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



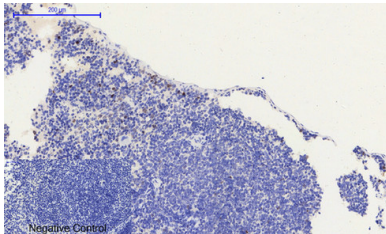
パラフィン包埋ヒト胃癌組織の免疫組織化学染色。1. ヒストン H2A.X (リン酸化 Ser139) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



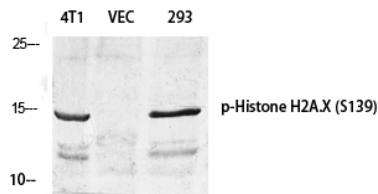
パラフィン包埋ラット精巣組織の免疫組織化学染色。1. ヒストン H2A.X (リン酸化 Ser139) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム pH 6.0 を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



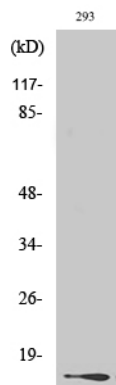
パラフィン包埋マウス精巣組織の免疫組織化学染色。1. ヒストン H2A.X (リン酸化 Ser139) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



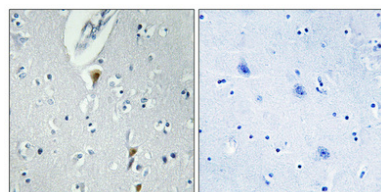
パラフィン包埋マウス脾臓組織の免疫組織化学染色。1. ヒストン H2A.X (リン酸化 Ser139) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



1: 500 に希釈したリン酸化ヒストン H2A.X (S139) ポリクローナル抗体を用いた各種細胞のウエスタンブロット解析。



1: 500 に希釈したリン酸化ヒストン H2A.X (S139) ポリクローナル抗体を用いた 293 細胞のウエスタンブロット解析。



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。